

経済連携協定外国人看護師における国家試験合格後の問題調査報告書
そのⅡ：国家試験合格者の問題

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的
2. 調査の対象
3. 調査の時期および方法
4. 回答の状況

II 調査の結果

1. EPA 看護師候補者として来日した目的
2. 国家試験合格後、幸せ（嬉しい）と感じていること
3. 国家試験合格後、困難（辛い）と感じていること
4. 今最もしたいこと
5. 将来の目標（夢）
6. 日本や日本人について
 - 1) 好き、気に入っていること
 - 2) 嫌い、改善して欲しいこと

III 調査総評

I 調査の概要

1. 調査の目的

経済連携協定（EPA）で来日した看護師候補者のうち国家試験合格者（外国人看護師）について、合格者の側から合格後の問題点を明らかにする。

2. 調査の対象

第 100 回及び第 101 回看護師国家試験における EPA 外国人看護師候補者の合格者合計 63 名

3. 調査の時期及び方法

平成 24 年 6 月～平成 24 年 11 月

調査対象者の受け入れ施設（48 施設）に郵便にて調査票を送付し、郵送にて回答（無記名）を受領。48 施設のうち 10 施設の合格者 13 名については、面談調査を併せて実施した。

4. 回答の状況

調査対象者 63 名のうち回答者（外国人看護師）は 31 名（49.2%）であった。回答者の合格年月と出身国を表 1 に示した。

表 1 回答者の合格年度と出身国

看護師国家試験 合格年月	インドネシア		フィリピン	
	合格者数	回答者数	合格者数	回答者数
2011 年 3 月（100 回）	15	6（40.0%）	1	0（0.0%）
2012 年 3 月（101 回）	33	15（45.5%）	13	10（76.9%）

回答に使用された言語はインドネシア語（19 名）、英語（8 名）、日本語（3 名）、タガログ語（1 名）であった。

II 調査の結果

1. EPA 候補者として来日した目的

来日した目的は、看護先進国である日本で看護学と技術を学んでキャリアアップしたい（17 名）、高い給料を得て家族を経済的に支援したい（9 名）、海外で働き、新しい経験がしたい（6 名）など。

回答の原文（翻訳）は以下のとおりである。

（インドネシア人）

- ・（日本で）看護師の仕事がしたかった、日本で看護師のシステムを学び帰国してプロの看護師になりたい。
- ・私の来日目的は日本の先進的でしっかりとした看護学と技術を学ぶためです。国家試験に合格し、たくさん学びインドネシアに帰国してから日本で得たことをインドネシアで実施、実践したいと思う。
- ・近代的、最先端の医療において知れ渡る日本から看護や医療を学びたい。その他自己研鑽の実現。

- ・日本の看護学の進んだ学術と技術を学びたい。
- ・いくつかの目的がありますが、看護学の知識をさらに広げることです。日本で仕事をすれば将来有望と私は思っています。
- ・日本のような先進国の看護の勉強を切望、以前いた病院の医療器具の70%ぐらいが日本製だった。
- ・日本語を学ぶため。日本で高度な看護学と医療を学ぶため。
- ・日本の看護師としての経験を積むため。又、インドネシアと日本の看護師のはっきりとした比較もしたい。
- ・インドネシアにはない新しい看護の知識を学び深めたい。その他、試験に合格後、病院で日本人看護師と一緒に仕事をしたい。
- ・専門的には産科看護師として、一般的には産科技術の経験を積み、知識を深めるため。その他日本社会の風俗、習慣を学びたい。
- ・日本の看護術を学び、国家試験にとおること、給与の良いところを探すため、日本とインドネシアの共同事業に参画する、日本は看護師が足りない聞き、役に立てばと思う。
- ・日本での看護師としての仕事がしたい。
- ・まず経験を積み、高給をとりたい。そのために、国家試験に合格し、日本人看護師と一緒に仕事をしたい。だから必ず国家試験に合格する。
- ・海外で仕事がしたかった、新しい経験がしたかった、高給が欲しかった。
- ・海外で経験がしたかった、特に日本は先進国なので日本で看護師になりたかった、高給がほしかった、日本の看護師試験に合格したかった。
- ・海外で仕事がしたく日本の看護師になるため。海外で仕事をするのが夢です。海外でその国の人の生活を見るのが好きだ。
- ・海外で看護師として仕事がしたかった。日本は看護師不足聞き、このプログラムに惹かれました。経験を積み、同時に日本の役にもたつことができる。
- ・多くの友人が国家試験は難しいと話していたが、必ず合格しようと思った。
- ・海外(日本)で看護師の経験を積むため。インドネシアで直ちに応募した。
- ・日本に住みたいから。

(フィリピン人)

- ・日本のような高度で先進的な技術を持った国で看護師という専門職を向上させるため、同時に家族を経済的に援助するため。
- ・看護師として日本で働きたいので来日した。看護技術を高めたい、もっと知識や経験を得たい。日本で看護師として働けば高い給料を得ることができると信じて、来日した。自分自身のためのみならず、家族のためにも稼ぎたい。
- ・国際的な看護師として働き、看護経歴を向上させたい。高い給料をもらいたい。他の国、異なった文化、異なった人々・人柄、異なった生活様式についてもっと知りたい。
- ・フィリピン政府プログラムに参加するため。日本で看護師として働いてみることは看護師としての自分の技術を向上させるのにいい機会だと思った。何故なら、日本の医療システムと技術はフィリピンよりもはるかに進歩しているから。

- ・フィリピン海外就労協会を通して JICWELS が我が国（フィリピン）に来て、日本では医療従事者が不足しているので外国人看護師を募集するプログラムがあると言った。私は日本の医療に役に立ち、かつ看護師としての知識と技術を向上させたいと思った。
- ・日本で働き、よい給料を得るため。日本の近代技術を知るため。
- ・看護師として病院で働き、お金を稼ぐため。
- ・日本語を勉強し、国家試験に合格し、看護師として働くため。
- ・これが私にとって初めての海外旅行であり、海外就労です。だから、新しい環境や文化を経験したいと思う。
- ・私が独立できることを母親に見せたい。いつも親に心配かけて（いるので）感謝を返してあげたい。そして日本とフィリピンの福祉と向上のために日本へ来た。

2. 国家試験合格後、幸せ（うれしい）と感じていること

むずかしい試験に受かったことを誇りに思う、うれしく思う（23名）。看護師としての職務・職能が認められる、成長ができる（13名）。給料が上がる（5名）、家族を呼べる・長く滞在できる（1名）ことなど。支援してくれた人々が喜んでくれた（1名）こと。

回答の原文（翻訳）は以下のとおりである。

（インドネシア人）

- ・給与が上がること。看護師として、また看護師の職務、職能を認められること。
- ・日本で看護師として仕事ができること。最新の看護学やインドネシアでは遅れている看護術を学べること。
- ・日本で看護師として仕事ができること、今まで勉強してきたことを日本の患者さんに実行できること。
- ・看護師の仕事ができるようになるからうれしい、給料が上がるからうれしい。
- ・看護師として働けること。
- ・看護師として働けること、家族に経済的援助ができること、自分の未来が少し描けること。
- ・充足感でいっぱい、今まで貰ったことのないような給与とボーナス、海外旅行ができること。
- ・ついに日本人と同じレベルの難易度の高い試験に外国人（インドネシア人）として合格できたこと、それだけではなく、毎月、より高給がもらえること。
- ・日本の看護師試験は大変難しい。ましてや、日本人でない私達にとっては。合格して看護師としてフルに仕事ができ、私自身、大満足しています。
- ・看護師になれて嬉しい。試験に合格し、日本人についていける。
- ・不合格ならば優秀な助産婦（看護師）として仕事ができないが、合格した後は看護師という職に対して、仕事も勉強もより一層頑張れる。（万歳）。
- ・目的を達成した後のおだやかさ、看護師として日本に長く滞在できること、病院の人達や先生方に喜んでもらったこと、家族を日本に呼べること。
- ・国家試験に合格し、満足感と感謝です。しかし、私が勉強に努力しただけではなく、病院のスタッフの人達の支援や、日本語を教えてくれた人達、勉強をみてくれ精神的にサポートをしてくれた人

達皆様のお陰です。

- ・友人がたくさんできること
- ・誇りに感じたが、信じられなかった。日本の看護師試験に合格したのが分って、重要なのは一生懸命やれば、不可能はないということ。
- ・合格を知った後、最初は涙が出てきました、そして神に感謝した。合格できてとても嬉しかった、私の人生での最高となりました。合格後、看護師として仕事を始め、最初は日本語の会話と病気をすることに大変な難しさを感じましたが時間がたつにつれ、患者と接触するにつれ、少しずつ進歩しています。
- ・試験に合格して幸せです。今年は3年目であり個人的には充分勉強しましたが、もし不合格であったなら、私にはもう続ける元気も、ましてや機会も無かったですよ。
- ・合格できたのはアラーのお陰であり、まず神に感謝。合格後、感謝と感激が混ざり合った感じです。日本の看護師試験合格後、幸せをかみしめています。私に言わせれば、とても難しい漢字のある日本語の学習もあまりよくなく、日本人でさえ、その難しさで、不合格者が多数であることを思えば、幸運でした。ひとつ自慢できるのは、自分、家族、そして今、試験に合格できるようにいつも支援してくれた、私の働いている病院の人達の応援です。日本に、今、私の働いている病院に、インドネシアという旗が翻るのを、神に感謝します。
- ・日本の看護師国家試験に合格したことは特別誇りに思います、私の結果に大満足です。
- ・日本の看護師として看護についてどこまでも(看護の真髄まで)学べることに満足しています。
- ・まず、満足感と誇りに思います。しかし実際に看護の仕事に就いた後は言葉や知識はまだまだなので、合格だけでは充分ではありません。
- ・日本の看護師試験に合格して誇りに思います。

(フィリピン人)

- ・日本の看護師国家試験に合格したことは大変な功績です。我々は日本で自分たちの職業を実践できるのです。とくにヘルスケアに関する日本の技術はフィリピンよりもはるかに素晴らしい、看護師として専門的成長ができる。
- ・合格を知らされたときはとても興奮した。幸せ、何故なら自分の職業(看護師)を実行できる資格をついにとったのだから。
- ・母国であるフィリピンから離れて海外で働くことはずっと前からの私の夢であった、国家試験に合格し、今日本で最も素晴らしい病院の1つで手術室看護師として働いている。目標を達成できたので、今とても幸せであるといえる。手術で医師を補助すること、また手術について多くのことを学べてとても幸せである。
- ・国家試験に合格することは私の目標でした。一番難しいことを成功できたことがうれしい。
- ・日本の看護師国家試験に合格したことを知りとても嬉しかった。たくさんの方が私を祝福してくれた。私はたくさんの人、とくに一生懸命に教えてくれた日本語の先生が、私のことを誇りに思ってくれたことを知って幸せと感じた。
- ・日本の看護師国家試験に合格できると思っていなかったなので、合格を知ったとき、とても驚き、幸せに思いました。試験に合格した日から私の人生の展望と計画が変わった。

- ・日本の国家試験に受かったと聞いた日に感じた嬉しさは表現できないほどであった。私をサンバリー病院にもたらし、そこでは国家試験勉強について終始適切に支援してくれたことに対し神に感謝したい。
- ・合格を知らされたとき、信じるができなかった。家に帰りすぐに妹と母にインターネットで合格を知らせた。
- ・国家試験合格を知らされたときとても嬉しく思った。これまでの勉強に対するすべての努力と苦勞が報われたのですから、とてもうれしかった。嬉しくて涙がでた。
- ・とても嬉しい。

3. 国家試験合格後、困難（つらい）と感じていること

最大の困難は日本語である（28名）。患者、医師、同僚とのコミュニケーションが難しく、仕事がうまくいかない（15名）、医師の指示がよく理解できないことがある（2名）、もっとも苦手は看護記録である（8名）。また、敬語、尊敬語、丁寧語がうまく使えない（1名）。夜勤が長いなどインドネシアに比べて日本の看護師の仕事はよりきつい（2名）。文化が異なる（1名）。

回答の原文（翻訳）は以下のとおりである。

（インドネシア人）

- ・国家試験に合格しても、道のりはこれから。看護師となっても仕事の上で日本語という非常に大きな問題があります。
- ・国家試験合格後、嬉しさを感じているだけでなく、新しい仕事や周囲の状況に対して、つらさやストレスも感じています。限定された日本語で看護師や医師、そのほかのスタッフや患者とのコミュニケーションにも難しさを感じています。新しい環境や国の違いからの困難はありますが、まず仕事、そして看護学ともっとうまくコミュニケーションがとれるよう日本語の勉強に励みます。仕事と勉学にずっと頑張ることを、神にかけて誓います。
- ・患者や同僚と今までにうまくコミュニケーションがとれない。すべての人が日本語であらゆることをはっきりできるわけではないが、私に関しても、与えられた指示がまだはっきりとうまく理解できないことがある。
- ・日本語の能力がまだまだなので、患者や同僚、ドクターとの意志の疎通が滑らかでない。
- ・医師、同僚や患者とのコミュニケーションで日本語がまだまだ。
- ・日本語が難しいので、意志がなかなか伝わらない。
- ・日本語がまだまだなので、同僚や患者とのコミュニケーションにおいて、まだまだと思っている。
- ・日本語が一番問題だ、日本語ができないと信頼関係をつくるのが難しく仕事がうまくいかない。
- ・日本語。まだ患者や同僚とコミュニケーションが充分でない。看護記録の漢字の書き方など、まだまだうまくできない。
- ・日本語がまだまだ。書くことも、コミュニケーションも。周りの人達ともっと話したくても、表現力も足りなく、しばしば上手くない
- ・合格後、問題山積です。先ず患者や医師、そして同僚とのコミュニケーションです。どうやって彼らと一緒に仕事をし、コミュニケーションをとっていくのか、望みが無くなっていきます。特に看

護記録は難しい。どうしてもダメなら帰国するだけです。

- ・今でも日本語がうまくできないけれど、病気やそのほかあらゆる事を勉強しています。いかなる問題があろうとも試みず、あきらめたくないです。私を応援してくれている人達のためにも、いつも勇気づけてくれる神のためにも、看護記録は日本語が難しい。それでも頑張り続けて、少しずつ書きたい。
- ・日本語が最大の課題。看護学を深める上で困難であり、看護をする時でも問題であり、看護記録でさえ、かなり遅れてしまう。
- ・指導者になるには困難や多くの問題があります。言葉の違いが仕事の上で障害となる。もっとも難しいのは、申し送りと看護記録です。
- ・日本語で報告書を作ること（話すのは書くよりはるかに易しい）。インドネシアに比べ日本の夜勤時間は長い。
- ・看護記録に時間がかかる為、帰宅時間がいつも遅くなる。
- ・看護記録。良い日本語はときに難しい。
- ・目上の人や患者さん、患者さんの家族、仕事仲間に対して敬語、尊敬語、丁寧語がまだうまく使えないので、仕事もまだまだです。
- ・難しいのは日本語です。直接でも電話でも、まず患者なのか、患者の家族なのか、はっきりさせることです。
- ・看護師として認めてもらえない（インドネシアですでに看護師をしていますが）。日本語に限界があるため、仕事や勉強に困難が付きまとう。
- ・日本語がまだうまくない。理解できないことがたくさんある、間違えて理解する。同僚と患者での言い方の違いなど。患者のいぶかるような話しぶりから、信じていないような感じ。日本語が分らないと、さみしく、落ち込んでしまう。看護師の人達が忙しいと、尋ねようと思っても戸惑い、一層分らなくなる。合格後、病院の反応は上々であるが、看護師になる為のプログラムはまだはっきりとしていない。合格した私達は何をしていくのか、はっきりと分らない。
- ・同僚とまだ親密にできない。
- ・今でも、そんなに努力したとは思えないが、インドネシアの家族や同僚、上司のサポートのおかげ
- ・インドネシアに比べ日本での仕事は、よりきつい。差が無いように、日本人なみに働くこと。合格後、インドネシア人と日本人の区別がなくなった。日本語の練習など訓練がなくなった。

(フィリピン人)

- ・国家試験に合格したが、言葉の壁があるのでとてもつらい、良い看護師になれる道は近くない。
- ・看護師として、これから日本人看護師と同等に働かなければならないことに不安を感じている。言葉の壁があること、職場での責任が重いことを知っているの、日本人看護師と同等に働くことは私にとって容易なことではない。
- ・日本語で自分が感じていることを話したり、意見を述べることが難しいことがある。手術室で働くには同僚の看護師、上司、医師と、また他の科の人々との良好なコミュニケーションが必要である。それには自分の日本語能力を上げることが必要だと思う。
- ・すでに3年間日本に住んでいるが、まだわからないことがたくさんある。日本語を話す能力もまだ

足りない。自分自身を完全に表現できていない状態である。

- ・たくさんの漢字があるため流暢に話したり書いたりすることができないので、もっと勉強することが必要である。
- ・時に自分をバカで価値がない人間であると感じる。私は知識も技術もあるのに、医師や他のスタッフの指示がわからないから、自分の義務や責任を果たすことが難しい。
- ・最初、とても神経質になっていた、仕事場で何かがおこるかもしれないと心配していた。私は試験に合格したが、それは患者さんや医師が言っている言葉一つ一つを容易に把握できるということを意味しているわけではない。
- ・皆が多くを私に期待していたので、最初はプレッシャーに感じた。私は患者とも同僚とも十分に会話することができない。
- ・むずかしいのはコミュニケーションです。何を言っているのか理解することはできるが、表現するとなると文をつくるのがとても難しいことがある。
- ・国家試験合格後、ここで働くことがとても難しいことがわかった。日本の看護師はやさしい仕事ではない。ここで初めて知った仕事やフィリピンで看護師として働く際に今までに経験しなかった仕事がある。言葉の壁とは関係なくても同僚と交わることがむずかしい。文化が異なることが仕事上の関わり合いにも影響する。

4. 今、最もしたいこと（仕事に関係があること、ないことどちらでも）

患者、医師、同僚との意志疎通や仕事をもっとできるように、日本語をもっと勉強したい（16名）。その他、もっと勉強をしたい・専門の資格をとりたい・大学院に進学したい（5名）、日本に長く住みインドネシアと日本の懸け橋になりたい（1名）、インドネシアの学生のために日本の看護の本をインドネシア語に翻訳したい（1名）、家族を日本によびたい（2名）、日本の文化を勉強したい（2名）、北海道旅行をしたい（1名）など。

回答の原文（翻訳）は以下のとおりである。

（インドネシア人）

- ・日本語を書くこと。文章をつくること、文法などが難しいのでゆっくり教えて欲しい、病棟で看護師としていろいろ書くことがあるから正しい文章を書かないといけない。
- ・仕事上困難が無いよう日本語がうまくなりたい。
- ・意志疎通や仕事をもっとできるよう日本語の勉強をもっとしたい。日本で日常生活するなかで感じる日本の文化をもっと勉強したい。
- ・医師、同僚や患者とのよりよいコミュニケーションのために日本語をもっと勉強したい。
- ・日本語でのより良いコミュニケーションで看護師として、より良い仕事ができるようにしたい。
- ・初めは結婚して当地で夫と住みたいと思っていました。何故なら一人で生きていくのは非常にきびしいから。でもだんだん慣れて考えが変わった、少しずつ看護師、日本語、看護学の勉強を始めた。どんなに時間がかかろうとも、必ずできると信じて。
- ・日本語をもっと流暢にしゃべれるよう、日本語で看護記録がもっと上手に書けるようになりたい。心がまっすぐで、いつも微笑んで患者に尽くす看護師になりたい。勿論、国籍、人種、種族、宗教の

差別無しで。

- ・職場でも社会でも日常の生活が困難にならないように、日本語と漢字をもっと勉強したい。
- ・まず日本語がうまくなりたい。難しい漢字も読めるようになり、仕事を一生懸命し、博識で技術も備えた立派な看護師になりたい。希望があります。それは両親をメッカに巡礼に行かせたいことです。アーメン。
- ・もっと流暢に日本語を話したい。
- ・日本語をもっと満足できるようにしたい。日本語がもっと生き生きとなるよう、もっと勉強したい。
- ・今いる病院の専門は血液透析と心臓カテーテルなので血液透析を勉強したい、N Iに合格したい。今年7月受験したが10点足りなかった。来年また挑戦したい。
- ・車の免許をとりたい、日本語をもっと勉強したい。
- ・もし永住権が取れるならば将来長く住みたい。E P Aプログラムの進展に合わせてインドネシアと日本のかけ橋になりたい。介護福祉士の国家試験受験生の為、手助けしたい。
- ・看護師の勉強を続け皮膚科の専門看護師になりたい。日本の看護学に関する本をインドネシアの学生の為にインドネシア語で著したい。
- ・不合格ならば優秀な助産婦(看護師)として仕事ができないが、合格した後は看護師という職に対して、仕事も勉強もより一層頑張れる。(万歳)。
- ・勉強をずっと続けたい。
- ・もっと勉強を重ねたい。
- ・仕事では、ICUで働いているので、日本のICU看護師として、もっと学びたい(人工呼吸器など)。
- ・今、まだ眼前には確定した予定は無いが、今後ずっと日本で仕事をすると、インドネシアの家族も大変だし、日本で一緒に住むのも簡単ではない。
- ・今、一番希望していることは、私自身が満足できる仕事をする事です。
- ・観光でも、住むのでもよい。家族をよびたい。

(フィリピン人)

- ・日本語を流暢に話せるようになりたい、何故なら自分を思いのままに表現できる、日本人の患者さんに有効な看護をしてあげられる、同僚の役に立てると思うから。
- ・良い人間関係を築くために日本語がもっと上手になりたい。
- ・日本語を磨きたい。幸いにも病院は日本語教師を我々に提供してくれている。
- ・同僚のみならずとくに院内の患者さんに表現したり、知識を共有するために日本語が流暢に話せるようになりたい。
- ・看護師の仕事特に患者のことを把握したい。母国でやっていたように笑顔で相手の気持ちを読み取れるようになりたい。
- ・手術室看護師として働き続けたい、同僚と一緒に働きたい、多くのことを学びたい。もし可能なら別の訓練を受けてみたい。手術関連看護の分野で資格をとりたい。また、Culinary arts(日本料理?)を勉強してみたい。
- ・たくさんの新しい技術を持った病院で働き、多くのことを学びたい。
- ・修士課程に進み、special child nursing careを専攻したい。

- ・看護師として働き、外国人看護師も一生懸命に働くこと、病院の役に立つことを日本人看護師に示したい。日本語を勉強し記録をしたり、記録を読んだりすることは簡単ではないが、フィリピン人看護師は日本人看護師と同様になるとうとしていること、同じように働こうと頑張っている。
- ・家族を日本に招待したい。

5. 将来の目標（夢）

日本の看護師として向上を目指したい（7名）、大学院に進学したい（5名）、専門（認定）看護師になりたい（2名）、大学などで教育者になりたい（5名）、母国で起業したい（3名）、家族と日本に住みたい（4名）など。

回答の原文（翻訳）は以下のとおりである。

（インドネシア人、自由記述）

- ・看護師として仕事がうまくでき時間がたったら、リーダーになりたい。
- ・日本の看護師として言葉の問題も無く、他の看護師とも連携して仕事をする。
- ・日本でプロの看護師になることです。（生物学、心理学、社会学、文化）と総合的に患者に対応できるような。
- ・プロの看護師。
- ・在宅看護師。
- ・修士課程まで修めたい。
- ・日本で大学院修士課程に入りたい。
- ・日本の奨学金で修士号を取りたい。
- ・チャンスがあれば、大学にはいり看護学を学びたい。
- ・チャンスと能力があれば勉強を続けたい。
- ・インドネシアに帰り、大学で看護学の教授になり、看護師を日本に送るプロジェクトに関与したい。
- ・眼前の夢はどこかで看護学の先生になることです。そのために、看護学、看護術ともにもっともっと勉強しなければなりません。
- ・さらに勉強を続け、看護を教える先生か、手術室での仕事ができるような看護師か透析看護師になること。そして両親や家族を愛し、幸せにすること。他の人達や国や信仰の役に立つこと。
- ・将来のことを話すのは非常に難しい。でも、もしチャンスがあれば助産師の教育者になりたい。
- ・経験を沢山積み、さらに勉強を重ね、クリニックを持ちたい。
- ・今、インドネシアにある病院の分院を開きたい。インドネシアで透析看護師になりたい。
- ・自分の会社を持ちたい。何人かで作るか、友達と作るかでも良いが。
- ・医療関係の会社を持ちたい。両親を幸せにしたい。日本で得たことを生かせる仕事をインドネシアでしたい。
- ・結婚して子供を産み、仕事をしながら日本で暮らしたい。
- ・日本で仕事をし、家族（子どもと夫）と一緒に住みたい。
- ・小さな家族を持ち、しっかり働き、教えを実行していきたい。

(フィリピン人)

- ・ 職場のチームに入りたい、足を引っ張るだけでなくチームの一員として。
- ・ すばらしい日本の看護師になること。看護師として自分の義務と責任を果たすこと。
- ・ 日本語に磨きをかけること、そうすればもっと役に立てる働きができると思うから。
- ・ 専門看護師または看護教育者になりたい。そして、もしチャンスが与えられれば、私の究極の目的は医師になることです。多くの人々、とくに母国の人々を助けたいと思う。
- ・ Special Child Nursing Care を専門とする看護師になりたい。
- ・ もし可能なら 長期間日本に住みたい。いつかは家族を持ち、日本で仕事を続けたい、機会が与えられれば、自分の英語を役立ててみたい。
- ・ 家族と日本で暮らしたい。
- ・ 家族を日本に呼び寄せたい、そしていかに日本がすばらしいか、場所のみならず人々についても、家族に見せたい。
- ・ 昇進することや看護師として最高の地位につくことは容易なことではないと思う。私ができることは仕事においてベストをつくすこと、お金を稼ぐこと、もっと節約し、利益を楽しみたい。

6. 日本や日本人について

1) 好きなこと、気に入っていること

日本人は礼儀正しい (6名)、親切である・友好的である (6) 時間を守る (5名)、規律正しい (5名)、他人に配慮する、仕事熱心である (5名)、チームワークで仕事をする (4名)。日本は清潔、安全な国であり (5名)、交通渋滞がない (2名)。

回答の原文 (翻訳) は以下のとおりである。

(インドネシア人)

- ・ 日本人はとても 丁寧 である。とてもよいことだと思う。
- ・ 仕事を上手くやるため、一人一人がエゴを捨て、礼儀正しく、話し方や態度も良い。個人主義ではなくチームワーク。
- ・ お客に礼儀正しい。
- ・ ほとんどの日本人は、きちんと、礼儀正しく、行動もきちんとしている。
- ・ いつも活力があり、礼儀正しく、規律がある。地域が 清潔 で、安全 である。
- ・ 日本人は文化的で話し方も ていねい である。腰が低く、ていねいである。日本はテクノロジーも高く、それゆえ住みやすい。
- ・ 日本人は 優しい、日本では スリが少ない ので安心である。
- ・ 日本は 平和な国 で、社会問題も少ない。人々は助け合っている。社会に貢献するボランティアが多い。清潔/整頓/。
- ・ 清潔。交通機関がすごい。日本人は常に 秩序があり、清潔 できれい。交通渋滞 や 洪水がない。
- ・ 規律があり、協議しながらの仕事する (ほうれんそ)。道路に 渋滞が無い。
- ・ 仕事に規律があり、システムティック。
- ・ 日本人は 時間を守り、責任感があり、はっきりしていて、規律正しい。

- ・日本は先進国。日本人は時間に正確であり、指示に従う。
- ・日本人は規則に従い違反することはめったに無い。
- ・規則正しく、秩序だって生活している。まじめ。
- ・行動するときに、熟考する。常に計画的で組織的である。
- ・時間に正確で、清潔で、労苦をいとわず、仕事を最後までやりとげる。
- ・日本人は仕事にまじめ。仕事に責任を持ち、信念を持っている。日本人は常に他の人に配慮、考慮している。
- ・日本人は友好的で助けてくれる。私が今までうまくやってこられたのも支援のおかげです。
- ・外国の文化が入ってきても、伝統文化をしっかりと守っている。
- ・四季があること。面白く、楽しいことが一杯ある。

(フィリピン人)

- ・もっとも好きな点は日本人は他人を喜んで助けること、たとえささいな問題であってもすぐに解決法を見つけてくれる。日本人は、信用できる、責任感がある、信頼に値する。日本は清潔である。
- ・日本人は非常に親切である、困っていればいつでも進んで助けてくれる、そして常に、できる限り説明しようとしてくれる。
- ・日本人は礼儀正しく、親切である。
- ・日本人は非常に従順な人々です。相手の気持ちを傷つけないように気を使っている。
- ・日本人は正直で非常に仕事熱心である。私のような外国人に対し非常に礼儀正しく、友好的である。
- ・仕事熱心である。
- ・日本人についてもっともすばらしいと思うことは、時間を守ること、信頼できること、仕事熱心であること。
- ・日本人はよく仕事をするところが好きだ。日本人は競い合い、質の高い結果を求める。
- ・いつも時間に正確。よく働くとは仕事のみするという意味である（遊びはなし）。

2) 嫌いなこと、改善して欲しいこと

物事をはっきり言わないのでわかりにくい（4名）。思っていることと話していることが異なることがある（3名）。感情をあまり表現しないのでわかりにくい、冷たく感じることもある（4名）。他国のこと、異文化などを学んで欲しい（3名）。

回答の原文は以下のとおりである。

(インドネシア人)

- ・正誤を直接ははっきり言わない。あいまい。休暇申請が難しい（長く休めない）。
- ・物事をはっきり言わない。でも、何といても結局日本が好きだ。
- ・日本人はしばしばはっきりものを言わない。例として、良い、悪いをはっきり言わない。誤解しないように、もっとはっきり言って欲しい。
- ・はっきり（言って欲しい）。他人に心を開いて欲しい。
- ・日本人は表と裏がある。わかりにくい。

- ・本当はそう思っていないくても、お世辞でほめる。大げさにほめる。
- ・思っていることと話すことが一致しない。
- ・日本人はちょっと閉鎖的。親しくなるのが難しいときがある。
- ・日本人の態度は冷たい。いつもフォーマルな話し方をするので、外国人は意味がよく掴めない。日本人は英語がしゃべれない。和製英語は私のような外国人には意味がわからず、コミュニケーションできない。
- ・ときに非常に細かすぎる。冷たい/温かくないことがある（無表情）。
- ・日本人は微笑みが少ない。仕事に真剣すぎる。日本での生活費は非常に高く、きつい。
- ・仕事に頑張りすぎる。
- ・はっきり言うと落ち込んでしまう。日本の看護師はインドネシアの看護（技術）を日本の看護（技術）と同等とは認めない、低いと思っている。仕事が非常に多忙なため、周囲の人のことを考えない。
- ・日本人はインドネシアのことを、もっと理解してほしい。
- ・先輩と後輩の区別は非常に大切であるが、しばしばその差が大きすぎるように思える。
- ・冬
- ・ありません、特になし（2名）。
- ・記載なし（3名）。

(フィリピン人)

- ・日本人は感情を直接表現しないのでどのように思っているのかわかりにくい。
- ・すべての人が常に急いでいる、仕事場のみならず食事中や休暇中でも。急いでいれば、食べ物を味わうことができない、急いで話せば、その人をよく理解できない、あるいは友好関係を築く機会が得られないと思う。
- ・個人的な質問をする、しかしその人は私にその質問に答えて欲しいと思っているわけではない、他の人に同じ質問をした場合も同様である、ということがあがるが、それにはストレスを感じる。
- ・すべてについて非常に厳しく、細かい。もし何かまずいことをしたら、周りに他の人がいても直接それを指摘し、直ちにその人に伝える（人前で叱る）。
- ・日本人は心を広くすべきであるそして異文化を受容することを学ぶべきである。

Ⅲ 調査総評

1. EPA 看護師候補者として来日した目的

日本を看護先進国として捉え、経済的理由のみでなく、先進的看護や技術を習得したい、キャリアアップしたいという向上心を持って来日した人が多い。

2. 国家試験合格後に直面していること

EPA 候補者における過去の国家試験合格者が少ないことを知っており、合格したことを非常に誇りに思っている。

一方、合格者は、看護師として日本で働く資格を入手したものの、現実では日本語という壁の厚さに

悩んでいる。「壁」とは、言葉で十分に表現できないために患者・医師・同僚とうまくコミュニケーションがとれない、医師の指示が理解できないことなどである、なかんずく看護記録が苦手であるなどである。そのため、外国人看護師は看護知識や技術があるにもかかわらず、十分に力を発揮できない、信頼が得られないなど日本人看護師と同等に活動できないジレンマを抱えている。

外国人看護師は、「言葉の壁」を取り除くために、日本語の勉強をしたいと望んでいる。しかし、自ら日本語のレッスンを受けている者は少ないと思われる。面談調査をした13名中、当NPOの日本語教室に参加している3名を除けば、1名が地域のボランティア教室に通っている、1名が個人教授を受ける予定、その他の者は予定なしであった。また、合格後も日本語教育を実施している施設は、アンケート回答者では1施設、面談した施設では当NPOが支援する2施設を除けば、ゼロであった。

合格者受け入れ施設は合格までに多大な労力と費用を負担しているうえに、合格後もその負担は軽減されていない現状（「調査報告書その1」）があり、受け入れ施設に日本語教育を自己負担させることはむずかしい。現行では、日本語教育に対する政府の経済的支援は合格までの期間であり、合格後は給付されないが、合格後においても一定期間の経済的支援が必要である。また、外国人看護師に対しては、すでに日本人看護師と同一以上の賃金が支払われていることを考えれば、日本人看護師と同一以上の仕事をする義務があり、そのために必要な日本語の勉強を受け身ではなく、自ら求めてするよう自覚を促したい。自ら授業料を支払って日本語教育を受けている外国人看護師もすでに存在すると聞いている（1名）。

3. 外国人看護師が望む将来計画

外国人看護師の中には看護先進国である日本で経験を積むだけではなく、大学院への進学、資格の取得など旺盛な学習意欲をもっている人が多い。これに応える施策を考えることも今後の課題といえよう。

また、彼らは日本で学んだことを将来母国で生かしたいと考えている。家族と日本に住みたいと考えている者も少数いるが、日本に長く滞在することを望んでいる者はあまり多くなく、多大な負担を費やした受け入れ施設にとって安定した労働力供給源としては望み薄である。しかし、キャリアアップに必要な技能を習得するには一定期間が必要とされることを考えれば、受け入れ施設にとって収支のバランス上妥当な期間の滞在も期待できよう。

5. 日本や日本人について

外国人看護師は日本とは文化や習慣の異なる国の出身であるが、時間に厳密で規律正しい日本を気に入っているようである。また、日本人は彼らに友好的に接しており、外国人看護師と日本人の関係は良好であると言えよう。過去に国家試験不合格で帰国した元看護師候補者が日本に対し好意を抱くことは難しいかもしれないが、やがて合格者が帰国し活躍することにより、対日感情は徐々に好転するものと期待できる。

しかし、現状ではお互いの異文化理解はあまり進んでいないようである。外国人看護師は日本人がものをはっきり言わないことに悩まされている。我々も外国人に対してわかりやすい表現をするよう心がけるべきであろう。ただし、一般的に、患者にはそのような余裕はないので、やはり外国人看護師が日本語能力をあげる必要があるという結論になる。しかし友好関係の継続にはお互いの異文化理解が大切である。異文化交流は今後の課題と考えられる。